

科目名称：	特別支援教育の理解 I	
担当者名：	中村 明成	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>保育の時期の子ども理解だけでなく、学童期や大人の「特別な配慮を必要とする」方たちへの理解など、学外活動体験も含めながら、実践的に学びを深める。また、障害別の分類に頼らず、一人ひとりの違いを実感しながら、保育者としてのかかわりを構築する基礎となる理念・知識を修得する。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>今日の保育所、幼稚園、こども園では、様々な「配慮が必要な」子どもがいる。特に「自閉スペクトラム症（発達障害）」や、その疑いのある子どもとのかかわりが難しく、保育者も日々悩みながら保育している。本授業では、ノーマライゼーション・インテグレーション（統合保育）の流れから、インクルージョン（包摂する保育）に至る理念を押さえながら、「配慮が必要な子ども」とどうかかわるかが、「一人ひとりの子どもを大切にすることにつながることを、確認していく。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)	60		40		100
幼児教育DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 障害者支援施設支援員 社会福祉士 ケアマネージャー	《経験年数1》 11年10か月
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
「障害」に関する用語の調べ学習	文献とSNSをもとに、用語以外に関連することも調べられる	文献とSNSをもとに、用語について、よく調べられる	文献とSNSをもとに、用語について調べる	文献とSNSをもとに、調べたものが不十分である
参考図書読後レポート	参考図書をよく読みこんで、自分の課題として表現できる	参考図書をよく読みこんで表現できる	参考図書を読んでレポートにできる	参考図書の読み込みが不十分である
まとめ	特別な支援が必要な子どもについて、理解し今後の実習などに活かせる	特別な支援が必要な子どもについて、よく理解できている	特別な支援が必要な子どもについて、意識している	特別な支援が必要な子どもについての理解が不十分である

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 障害児保育の基礎① (意義と必要性)	前期の授業で学習したことを振り返る	40分
第2回 障害のある子ども・ひととの出会い	前期の課外活動についてまとめる	30分
第3回 今日における障害観・その歴史の変遷	前期「子ども家庭福祉」のテキスト「障害のある子ども」を読み直す	30分
第4回 障害児保育の基礎② (ICIDHからICFへ)	課題図書の読み込み	30分
第5回 障害児保育の基礎③ (障害別の理解を超えて)	課題図書の読み込み	30分
第6回 障害児保育の基礎④ (サービスの理解と家庭や専門機関との連携及びその必要性)	課題図書の読後レポート作成	30分
第7回 障害児保育の基礎⑤ (幼児期から学齢期・大人へ)	課題図書の読後レポート作成	30分
第8回 障害特性の理解と発達援助の具体的な方法① (視覚・聴覚) グループごとにプレゼンテーション	自分が担当するテーマを調べる	30分
第9回 障害特性の理解と発達援助の具体的な方法② (肢体不自由・医療的ケア) グループごとにプレゼンテーション	前回のプレゼンテーションのまとめ	30分
第10回 障害特性の理解と発達援助の具体的な方法③ (知的障害) グループごとにプレゼンテーション	前回のプレゼンテーションのまとめ	60分
第11回 障害特性の理解と発達援助の具体的な方法④ (自閉症スペクトラム及び気になる子ども) グループごとにプレゼンテーション	前回のプレゼンテーションのまとめ	45分
第12回 障害特性の理解と発達援助の具体的な方法⑤ (貧困、虐待児、外国にルーツのある子どもなど) グループごとにプレゼンテーション	前回のプレゼンテーションのまとめ	30分
第13回 障害児保育の実践① (総合保育の現場で)	前回のプレゼンテーションのまとめ	30分
第14回 障害児保育の実践② (保護者への対応と理解) 障害のある子どもを持つ母親の講話	実習での「特別支援」が必要な子どもについてレポートを書く	45分
第15回 講義のまとめ (特別な支援が必要な子どもの理解と対応)	実習での「特別支援」が必要な子どもについてレポートを書く	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、課題図書の読み込みと読後レポートの作成をすることになる。実習後の「特別支援」が必要な子どもについてもレポートを作成する。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。

その他は授業内レポートで40%

課題に対するフィードバック

授業で作成するレポートは、添削し評価し返却する。

教科書・参考書

テキスト 適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

「自閉症の僕が跳びはねる理由」(東田直樹著、角川文庫)

「自閉症の僕が跳びはねる理由2」(東田直樹著、角川文庫) 2冊まとめて、読後レポートの課題として使います